

第Ⅱ章 目標達成に向けたこれからの施策

■自然環境分野

1. 施策方針A 生物多様性に配慮したまとまりあるみどりの保全




ア. 施策の現状と課題

























































様々な動植物の生物生息環境を提供し、生物が生息できる場所、自然環境の保全や都市環境の創出を図りながら、生物多様性を保全していくことは、国家的な市民、事業者、行政が一体となって取り組む課題となっています。

多摩市内のみどりには希少な動植物も生息しており、これらを守る施策を推進していくことが大変重要です。

公園や緑地の整備、池やせせらぎ、河川等の水質維持改善と周辺環境の保全などにより、市域における生物多様性に配慮したまとまりあるみどりの保全の取組みや市域を越えた広域連携などの取組みを推進しています。

しかしながら、生物環境を把握する取組みについて、多摩市公式ホームページに市民から見つけた動植物の情報を提供していただく仕組みは、自然環境に対する市民の関心を高める普及啓発に効果がありますが、生物生息状況のデータベース化には相当数の情報の蓄積を要するため、新しい技術の活用などによる情報提供の見直しや、多摩市が主導的に生物調査を実施していくほか、平成20年に生物多様性基本法が施行されたのを受け、「生物多様性地域戦略」を策定するなど生物多様性に取り組む自治体が増えつつある中では、これらを踏まえた検討が必要となっています。

【施策の取組み状況評価】※評価の表記 取組みが前進した  変わらない  取組みが後退した 

施策と取組み項目		評価			
		H24年度	H25年度	H26年度	H27年度
01 生物多様性の確保に関する取組みの推進	①生物多様性の確保に向けた体制づくり				
	②生物生息空間の骨幹となるみどりの拠点と軸の形成				
	③生物環境の把握とデータバンク化				
02 拠点や軸となるまとまりある民有樹林の保全	①法制度を活用したまとまりある民有樹林の保全				
	②その他の手法によるまとまりある民有樹林の保全				
03 まちなかの民有樹林の保全	①緩やかな法制度や条例等の活用による民有樹林の保全				
	②その他の手法によるまちなかの民有樹林の保全				
04 生産緑地地区の保全と活用	①「みどりの拠点」内の生産緑地地区の保全活用方策の検討				
	②その他の生産緑地の保全活用方策の検討				
05 水環境の維持・保全	①湧水や農地等の水路の保全				
	②公園緑地の池やせせらぎの維持改善				
	③乞田川や大栗川、多摩川等の河川環境の把握と維持改善				
06 周辺自治体との広域連携の推進	①周辺自治体や東京都と連携した水とみどりの保全・再生・活用				
	②市域を越え市民がみどりを楽しめる環境づくり				

イ. これからの取り組みと役割

○施策01：生物多様性の確保に関する取り組みの推進

①取り組み項目：生物多様性の確保に向けた体制づくり【変更】

市	市民(市民団体等)	事業者
<ul style="list-style-type: none"> ・生物多様性に関する普及啓発等の取り組みを推進する。(環境政策課) ・生物多様性を確保するため、「生物多様性ガイドライン」を策定し、ガイドラインに基づいた取り組みを進める。(環境政策課) 	<ul style="list-style-type: none"> ・生物多様性の確保の大切さ等への理解を深める。 ・市の生物調査や保全施策の実施に協力する。 ・ペットを野生に放さない。 ・観察会など、生息環境の把握に努める。 ・「生物多様性ガイドライン」の策定に協力し、ガイドラインに基づいた行動に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生物多様性の確保の重要性を認識し、みどりの保全等に協力する。 ・「生物多様性ガイドライン」の策定に協力し、ガイドラインに基づいた行動に努める。

「生物多様性基本法」により、自治体は、国の施策に準じ、その地域の自然的社会的条件に応じた施策を策定し、実施する義務を負うことになりました。

多摩市では、平成27年3月に報告した「多摩しみどりのルネッサンスへの取り組み」の中で、今後、「多摩市版生物多様性ガイドライン」などの策定に取り組むこととし、地域の生物多様性の確保につながるガイドラインの策定に取り組む方針が示されています。これを受け、平成28年度はガイドライン策定に向けてのワークショップを開催し素案を策定しました。この素案を基に原案を策定し、パブリックコメントなどを実施の上、「多摩市生物多様性ガイドライン」を平成29年度に策定し、このガイドラインに基づいた取り組みを進める予定です。

本取り組み項目に、市民・事業者・行政の各主体が取り組む一定の指針やルールを定めた「生物多様性ガイドライン」の策定等の生物多様性への取り組みを追加し、生物多様性の確保に向けた取り組みを推進します。

②取り組み項目：生物生息空間の骨幹となるみどりの拠点と軸の形成【継続】

市	市民(市民団体等)	事業者
<ul style="list-style-type: none"> ・生物多様性の確保に寄与するみどりの拠点と軸の保全を推進する。(公園緑地課) 	<ul style="list-style-type: none"> ・みどりの保全への協力や関心を深め、活動につなげる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・敷地内のまともありあるみどりの保全を行う。

生物多様性に寄与するみどりの拠点と軸の形成に、既存の公共緑地とともに民有樹林の保全に引続き取り組みます。

※取り組み項目名にある【新規】【変更】【継続】は、それぞれ現基本計画の施策から、新たに追加する内容、変更する内容、取り組みを引継いでいる内容を示しています。

③取組み項目：生物環境の把握とデータバンク化【変更】

市	市民(市民団体等)	事業者
・動物の生息状況や植物の生育状況の調査等の実施と、調査結果を活用したデータバンク化を推進する。 (環境政策課)	・動物の生息状況や植物の生育状況の調査等への参加や、データバンク化へ協力する。	・動物の生息状況や植物の生育状況の調査等への参加や、データバンク化へ協力する。

生物多様性に関する取組みには、定期的に市内の生物環境の状況を把握することが不可欠です。平成15年度に市内に生息する動植物の調査を実施した以降は、市民団体と協働で川の生き物調査等を実施していますが、限定的なものにとどまっています。また、場所や種によっては生息環境等の状況変化があると思われるため、今後、動物、植物ともに調査対象種の拡大や、市民団体の独自調査結果の活用の検討などをしていく必要があります。

生物環境の把握やデータバンク化をさらに進めていくため、従来の取組みのほか、市民や事業者の協力のもと定期的に動植物の調査を実施し、この結果を野生生物の生息状況などの生き物マップ等の作成に活用します。

○施策02：拠点や軸となるまとまりある民有樹林の保全

①取組み項目：法制度を活用したまとまりある民有樹林の保全【継続】

市	市民(市民団体等)	事業者
・特別緑地保全地区制度等の活用によるまとまりある民有樹林の保全を推進する。 (公園緑地課)	・民有樹林の所有者は保全への協力を行う。 ・保全されたみどりの育成や活用に関する活動へ参加、協力する。	・敷地内に樹林を所有している場合、保全への協力を行う。 ・保全された樹林への維持管理活動等へ参加、協力を行う。

生物多様性に配慮した広域的なみどりのネットワーク形成に向け、市で位置付けているみどりの拠点や軸のうち、特に民有樹林については、さまざまな法制度の活用をしながら、持続的な確保を推進します。

②取組み項目：その他の手法によるまとまりある民有樹林の保全【継続】

市	市民(市民団体等)	事業者
・土地信託の活用など新たな民有樹林の保全方策の検討を推進する。 (公園緑地課)	・民有樹林の所有者は保全への協力を行う。 ・保全されたみどりの育成や活用に関する活動へ参加、協力する。	・敷地内に樹林を所有している場合、保全への協力を行う。 ・保全された樹林への維持管理活動等へ参加、協力を行う。

周辺・関係自治体との連携や、各自治体の市民団体の交流等の場での情報収集や意見交換を通じて、新たな手法による保全方策の検討を推進します。

○施策03：まちなかの民有樹木の保全

①取組み項目：緩やかな法制度や条例等の活用による民有樹木の保全【継続】

市	市民(市民団体等)	事業者
・既存の保全制度の継続と新たな保全方策の検討を推進する。 (公園緑地課)	・民有樹木の所有者は保全へ協力する。 ・保全されたみどりの育成や活用に関する活動へ参加、協力する。 ・みどりの協定の締結などみどりの保全へ協力する。	・敷地内に樹木を所有している場合、保全へ協力する。 ・保全された樹木の維持管理活動等へ参加、協力する。

保全が望ましい比較的小規模なまちなかの民有樹木は、現行の取組みを継続しつつ、新たな手法による活用方策を検討します。

②取組み項目：その他の手法によるまちなかの民有樹木の保全【継続】

市	市民(市民団体等)	事業者
・土地信託の活用など新たな民有樹木の保全方策の検討を推進する。 (公園緑地課)	・民有樹木の所有者は保全への協力をを行う。 ・保全されたみどりの育成や活用に関する活動へ参加、協力する。	・敷地内に樹木を所有している場合、保全への協力をを行う。 ・保全された樹木への維持管理活動等へ参加、協力をを行う。

周辺・関係自治体との連携や、各自治体の市民団体の交流等の場での情報収集や意見交換を通じて、新たな手法による保全方策の検討を推進します。

○施策04：生産緑地地区の保全と活用

①取組み項目：「みどりの拠点」内の生産緑地地区の保全活用方策の検討【変更】

市	市民(市民団体等)	事業者
・生産緑地地区の公的利用及び追加指定や、援農ボランティアといった農業者支援等を推進する。 (公園緑地課、経済観光課)	・みどりの拠点地区内の生産緑地地区の保全への理解と活用へ協力する。 ・地産地消へ協力する。	・農業者は、生産緑地地区の保全に努める。 ・その他事業者は、農業者への支援等を協力する。

「多摩市都市計画マスタープラン」(平成25年度改定)に、みどりの保全の観点から生産緑地地区の追加指定が位置付けられ、その取組みを平成25年度から継続しています。また、農業の担い手支援策として、農作業の手助けが出来る人材育成のため、平成27年度から援農ボランティアによる取組みを開始し、「第五次多摩市総合計画第2期基本計画」の施策「D1-3 都市農業の振興による農からのまちづくりの推進」を実現する手段としても位置付けられていることから、本基本計画においても両取組みの実施の方向性を位置付けるため、市の役割を変更して取組みを推進します。

②取組み項目：その他の生産緑地の保全活用方策の検討【変更】

市	市民(市民団体等)	事業者
・生産緑地地区の追加指定や、援農ボランティアといった農業者支援等を推進する。 (公園緑地課、経済観光課)	・みどりの拠点地区内の生産緑地地区の保全への理解と活用へ協力する。 ・地産地消へ協力する。	・農業者は、生産緑地地区の保全に努める。 ・その他事業者は、農業者への支援等を協力する。

①の取組み項目と同様に、市の役割を変更して取組みを推進します。

○施策05：水環境の維持・保全

①取組み項目：湧水や農地等の水路の保全【継続】

市	市民(市民団体等)	事業者
・湧水や水路の周辺環境を保全維持する。 (公園緑地課、下水道課)	・湧水や水路の周辺環境を含めた保全維持に努める。	・湧水や水路の周辺環境を含めた保全、維持活動等の支援を行う。

水源となる周辺環境の維持保全に取り組み、湧水や水路などについて、みどりと一体となった水環境の保全を推進します。

②取組み項目：公園緑地の池やせせらぎの維持改善【継続】

市	市民(市民団体等)	事業者
・公園緑地の池やせせらぎを、保全維持する。 (公園緑地課)	・生物多様性に配慮した公園内の池環境等の改善への理解や協力を行う。 ・外来生物や水面の異常を発見した場合は、市に連絡する。 ・水環境の保全活動に協力する。	・水環境の保全活動へ参加、支援等を行う。

市民の憩いの場や良好な都市景観としての水環境を維持するため、継続的な維持管理を行うとともに、池の水質環境にも注視し必要に応じて改善を図りながら、生物多様性への配慮をした公園緑地の池やせせらぎの保全維持を進めます。

③取組み項目：乞田川や大栗川、多摩川等の河川環境の把握と維持改善【継続】

市	市民(市民団体等)	事業者
・河川環境向上に向けた継続的な調査や、都への改善要望、普及啓発を行う。 (環境政策課)	・河川や水路等へ汚れた水を流さない。 ・清掃活動や水辺の活動に協力する。	・河川への汚染の流出や有害廃棄物の投棄防止に協力する。 ・河川環境の保全等に協力する。

モニタリング調査やパトロール、啓発などによる水質汚濁防止に取り組み、河川環境の把握と維持改善を図ります。

○施策06：周辺自治体との広域連携の推進

①取組み項目：周辺自治体や東京都と連携した水とみどりの保全・再生・活用
【継続】

市	市民(市民団体等)	事業者
・周辺自治体との連携会議への参加や隣接自治体と連携したみどりの保全等を推進する。 (公園緑地課)	・広域的な緑のつながりを理解し、保全や再生活動に参加する。 ・市民団体の市域をこえた連携の取組みを行う。	・みどりの広域連携の取組みに協力する。

多摩市は多摩丘陵の一翼を担い、神奈川県とも隣接していることから「多摩・三浦丘陵の緑と水景に関する広域連携会議」への参画や近隣自治体との既存樹林保全の取組みなど、引続き、積極的に周辺自治体との連携を推進します。

②取組み項目：市域を越え市民がみどりを楽しめる環境づくり【継続】

市	市民(市民団体等)	事業者
・市域を越えた遊歩道連携やイベントの実施等の取組みを推進する。 (公園緑地課)	・市域を越えたみどりを活用したイベントや環境づくりに参加する。 ・市民団体の市域をこえた連携の取組みを行う。	・みどりの広域連携の取組みに協力する。

今後も周辺自治体と連携した遊歩道ネットワークづくりやイベントの実施を行うとともに、多様な活用方策の検討をします。

2. 施策方針B 暮らしと調和したみどりの適切な育成管理




ア. 施策の現状と課題





































多摩市のみどりは、多摩ニュータウン区域を中心に創出・再生されたみどりと、昔ながらの多摩丘陵の里山的風景を感じさせるみどりと新旧のつながりが特徴で、これらが持つ機能は様々な局面で重要性を増しています。

その一方で、みどりの豊かさと良好な都市環境を提供するということがしばしばトレードオフの関係にあり、また、樹木の剪定時期間隔延伸による繁茂がもたらす防犯・防災、交通安全面等における課題を克服する必要があります。

これらの課題には、教育委員会と連携した通学路の交通の安全確保に向けた緊急合同点検の実施や「みどりのルネッサンス」における「量から質への転換」の推進等により、地域の参画を促し合意形成を図りながら取り組むとともに、公園緑地の維持管理を行う公園アダプトやグリーンボランティア等の市民団体間で情報共有を行い、市民によるみどりの管理に対する理解や協力を得ながら、市民協働による積極的なみどりの育成管理の展開も図っています。また、「街路樹よくなるプラン」(街路編)による支障箇所の改善では、沿道住民との情報交換をしながら、沿道環境が発生させる様々な弊害の解消に取り組んでいます。

このように、市民理解の醸成につながる市民・地域等とのパートナーシップは大変重要であり、これからも私たちの生活に身近な公園・みどりの適正な育成管理に向け、これまでの取組みによって得られた成果を活かしながら、暮らしと調和したみどりの育成管理に取り組んでいく必要があります。

【施策の取組み状況評価】※評価の表記 取組みが前進した  変わらない  取組みが後退した 

施策と取組み項目		評価			
		H24年度	H25年度	H26年度	H27年度
07安全安心な暮らしと調和したみどりの構築	①公園緑地の周辺環境における防犯や交通安全に配慮したみどりの点検と管理方針の構築				
	②防災に配慮した公園緑地ネットワークの再構築				
	③景観に配慮したみどりのあり方と保全手法の構築				
08みどりの適正な育成管理	①「街路樹よくなるプラン」(街路編)に基づく街路樹の管理の推進				
	②「みどりの管理シート」に基づく公園緑地の育成管理の推進				
	③民有樹林の育成管理				
09パートナーシップによる公園緑地等の育成管理	①既存支援制度の活用による持続的な育成管理				
	②グリーンボランティア制度による樹林等の持続的な育成管理				
	③市民イベント等を活用した公園緑地等の育成管理の推進				

イ. これからの取り組みと役割

○施策07：安全安心な暮らしと調和したみどりの構築

①取組み項目：公園緑地の周辺環境における防犯や交通安全に配慮したみどりの点検と管理方策の構築【継続】

市	市民(市民団体等)	事業者
・防犯等に配慮したみどりの管理のあり方を構築する。 (公園緑地課)	・防犯等の安全安心な暮らしとの調和からみだみどりの調査へ協力する。	・防犯等の安全安心な暮らしとの調和からみだみどりの調査へ協力する。

みどりの量と質の確保並びに生活環境への配慮もしていくため、引続き地域の参画を促し合意形成を図りながら、暮らしとみどりが調和する公園緑地の育成管理に取り組みます。

②取組み項目：防災に配慮した公園緑地ネットワークの再構築【継続】

市	市民(市民団体等)	事業者
・多摩市地域防災計画と連携した取組みを進める。 (公園緑地課)	・避難場所及び避難場所へのルートの理解と確認を行う。	・避難場所及び避難場所へのルートの理解と確認を行う。

防災・減災機能の向上といった課題対応には、みどりの役割は少なくなく、そのため、「多摩市地域防災計画」を踏まえ公園緑地等を活かしたみどりの防災拠点や防災ネットワークの再構築を今後も推進します。

③取組み項目：景観に配慮したみどりのあり方と保全手法の構築【継続】

市	市民(市民団体等)	事業者
・基本的な景観に配慮したみどりの管理のあり方を構築する。 (公園緑地課)	・みどりの景観ポイントなどの情報提供を行う。 ・市と協働し、みどりの景観に関する調査や検討に協力する。	・事業者活動において、緑地景観へ配慮する。

良好な街なみの景観に大きな役割を果たしているみどりについて、今後も地域の景観特性に配慮した育成管理等のあり方を構築する取組みを進めます。

※取組み項目名にある【新規】【変更】【継続】は、それぞれ現基本計画の施策から、新たに追加する内容、変更する内容、取組みを引継いでいる内容を示しています。

○施策08：みどりの適正な育成管理

①取組み項目：「街路樹よくなるプラン」（街路編）に基づく街路樹の管理の推進【変更】

市	市民(市民団体等)	事業者
<ul style="list-style-type: none"> ・「街路樹よくなるプラン」(街路編)に基づく街路樹の管理を進める。 ・現行の「街路樹よくなるプラン」(街路編)を改定する。(道路交通課) 	—	—

現行の「多摩市街路樹よくなるプラン」（街路編）は計画期間を平成20年度から平成29年度とし、今後、計画の改定を予定しているため、本取組み項目にこの改定を追加し、引続き街路樹の適正な管理を進めます。

②取組み項目：「みどりの管理シート」に基づく公園緑地の育成管理の推進【継続】

市	市民(市民団体等)	事業者
<ul style="list-style-type: none"> ・公園別緑地別の「みどりの管理シート」の作成を進め、地域特性を活かした育成管理を進める。(公園緑地課) 	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な公園緑地の「みどりのカルテ」づくりへ協力する。 	—

これまで作成してきた「みどりのカルテ」、「みどりの管理シート」を具体的な育成管理につなげ、身近な街区公園を中心に市民からの新たな活用提案とその提案への対応も推進します。

③取組み項目：民有樹林の育成管理【継続】

市	市民(市民団体等)	事業者
<ul style="list-style-type: none"> ・民有樹林の育成管理支援を進める。(公園緑地課) 	<ul style="list-style-type: none"> ・民有樹林の育成管理活動等に協力する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・民有樹林の育成管理活動等を支援する。

引続き、育成管理の支援について、多様な手法を検討し、民有樹林の育成管理を支えます。

○施策09：パートナーシップによる公園緑地等の育成管理

①取組み項目：既存支援制度の活用による持続的な育成管理【継続】

市	市民(市民団体等)	事業者
・アダプト制度などの既存支援制度を継続して行う。 (公園緑地課)	・制度を活用し、愛着のある公園となるよう維持管理活動へ協力する。	・制度を活用した維持管理活動の支援と協力をを行う。

既存の公園愛護制度やアダプト制度といったパートナーシップ方式による各公園緑地の特性を活かした市民による身近な公共空間の美化清掃について、参加の拡充方策を検討しながら継続的に推進していきます。

②取組み項目：グリーンボランティア制度による樹林等の持続的な育成管理【継続】

市	市民(市民団体等)	事業者
・グリーンボランティア制度による樹林等の持続的な育成管理 (公園緑地課)	・グリーンボランティアへの理解を深め、活動へ参加する。	・グリーンボランティア活動への参加、協力や支援を行う。

公園緑地の対象箇所や活動へのインセンティブの拡充、人材育成等の取組みを引続き推進します。

③取組み項目：市民イベント等を活用した公園緑地等の育成管理の推進【継続】

市	市民(市民団体等)	事業者
・みどりに関するイベント等の主催や支援を通じて、公園緑地等の管理への理解や協力を進める。 (公園緑地課)	・みどりに関するイベントの実施や参加を通じて、育成管理への協力や体験参加を行う。	・自らみどりの育成管理を実施するとともに、みどりのイベント等を支援する。

市民イベント等を活用して、市民への公園緑地の美化や育成管理への関わりを深めていくなど、地域特性を活かしたきめ細やかな公園緑地の質的向上への意識啓発を進めていくとともに、事業者とのみどりの育成管理に関する連携を推進します。

3. 施策方針C 身近なみどりの創出と公園緑地の再生

ア. 施策の現状と課題




みどりがもたらす効用には、快適性や景観、防災面のみならず生物多様性の保全、地球温暖化対策やヒートアイランド現象の緩和等があり、特に公園緑地が多い多摩市では、これらの維持更新などを通じて、多様な機能を発揮させることが求められています。また、住宅や事業所等の開発が進む中では、緑化の推進による魅力ある景観づくりは市民が身近に自然と触れ合えることにつながっていきます。

































身近な緑化の創出として、「多摩市街づくり条例」に基づく指導基準による建築物上の緑化比率の見直しや、市公共施設のグリーンカーテンづくりに取り組んでいます。このほか、学校PTAやコミュニティセンターの花壇管理を行っている団体等への花の種子の配布及び苗の育成講習会の開催、参加者が育てた苗の交換会は、団体間のネットワークづくりにもつながっています。今後は市民団体の人材育成支援などの対応が重要になっています。

公園緑地のリニューアルでは、多摩ニュータウン開発により同時期に整備された多くの公園施設が抱える老朽化や時代のニーズに合わないなどの課題に対応するための計画的な維持更新として、「都市基盤施設更新計画」等に基づく公園緑地施設の総点検と7公園の改修工事が完了し、取組みは着実に進展しています。このうち5つの街区公園の改修工事では、市民参加による要望等の意見を反映した整備を行いました。

また、全市的に公園数は充足しているものの、一部の地域で市民ニーズや防災の観点からも公園整備がまだ十分でない地域への対応として、借地公園の見直しを行い、借地部分の買収及び整備、用地返還に伴う代替地の都市計画決定などに取り組み、身近な公園の確保も図っています。今後も土地所有者の意向等も踏まえながら、市が定める方向性に基づき進めていく必要があります。

資源循環型社会を構築していくためには、みどりのリサイクルを推進していくことも重要です。剪定枝等の土壌改良材やウッドチップへの利活用、学校への教材としての提供、清掃工場に直接搬入される草枝ごみのごみ処理手数料の減免除外に伴う資源化センターでの新たな受入れを行うなど、様々な手法で取り組んでいます。しかしながら、まだ試行段階のものもあるため、これらの取組みの成果や市内の剪定枝等の発生量、利活用可能量等を精査しながら、新たなエネルギー源として木質バイオマスへの活用などを含め一層の施策展開が期待されています。

【施策の取組み状況評価】※評価の表記 取組みが前進した  変わらない  取組みが後退した 

施策と取組み項目		評価			
		H24年度	H25年度	H26年度	H27年度
10身近な緑化の推進	①多摩市街づくり指導基準の強化や緑化などへの意識高揚の推進				
	②公共施設の緑化推進				
	③市民の身近な緑化活動への支援				
11公園緑地のリニューアル	①公園緑地の総点検に基づく計画的な施設更新				
	②借地公園の適切な見直しの推進				
	③市民参加型のリニューアルの推進				
12みどりのリサイクルの推進	①剪定枝等の土壌改良材としての活用の推進				
	②みどりのリサイクルのあり方の検討				

イ. これからの取り組みと役割

○施策10：身近な緑化の推進

①取組み項目：多摩市街づくり指導基準の強化や緑化などへの意識高揚の推進

【継続】

市	市民(市民団体等)	事業者
・事業者等の開発行為への緑化指導を進める。 (都市計画課)	—	・開発行為等において積極的な緑化を行う。

今後も緑化指導基準に基づく緑化の指導を行うとともに、実施効果の検証を踏まえ、必要に応じ緑化基準の精査や手続き等の見直しや、みどりの保全や緑化等に積極的に取り組んでいる事業者を評価し、インセンティブの付加につながる手法を検討します。

②取組み項目：公共施設の緑化推進【継続】

市	市民(市民団体等)	事業者
・市役所や学校等での緑化を進める。 (公園緑地課)	・学校や集会施設等での緑化に協力する。 ・活動箇所や活動施設等での緑化に協力する。	—

建築物の省エネルギーの取り組みや市民の緑化への意識を啓発するために、庁内の関係課と連携し公共施設でのみどりのカーテン活動等により、今後も緑化の推進をします。

③取組み項目：市民の身近な緑化活動への支援【継続】

市	市民(市民団体等)	事業者
・住民の花壇づくり等身近な緑化への支援を推進する。 (公園緑地課)	・花植え等の身近な緑化活動に参加する。 ・緑化活動の主催や協力参加を行う。	・植樹や緑化活動への参加と支援を行う。 ・事業地内の緑化に努める。

アダプト制度やみどりのカーテン活動等既存の取り組みを継続し、イベントなどでも身近な緑化の推進をしていきながら、新たな緑化支援を検討します。

※取組み項目名にある【新規】【変更】【継続】は、それぞれ現基本計画の施策から、新たに追加する内容、変更する内容、取り組みを引継いでいる内容を示しています。

○施策 1 1 : 公園緑地のリニューアル

①取組み項目：公園緑地の総点検に基づく計画的な施設更新【変更】

市	市民(市民団体等)	事業者
<ul style="list-style-type: none"> ・都市基盤更新計画に基づく計画的な公園施設の検討を進める。 ・公園施設長寿命化計画を策定する。(公園緑地課) 	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の老朽化や危険性のある施設を確認した場合、市へ連絡する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の老朽化や危険性のある施設を確認した場合、市へ連絡する。

国が定めた「公園施設長寿命化計画策定指針(案)」に基づき、地方公共団体は、都市公園の価値・重要性について、公園緑地の立地や周辺の自然環境、将来の利用の見込み等も勘案しつつ整理し、ストックの状況を的確に把握して、施設ごとの管理方針、長寿命化対策の予定時期・内容等を、最も低廉なコストで実施できるよう整理することが求められています。

多摩市では平成 27 年度から「公園施設長寿命化計画」(以下「長寿命化計画」という。)策定に向けた施設関連の予備調査・健全度調査等を行い、検討を進めています。

この長寿命化計画の策定を本取組み項目に位置付け、今後、計画的に施設更新を行います。

②取組み項目：借地公園の適切な見直しの推進【継続】

市	市民(市民団体等)	事業者
<ul style="list-style-type: none"> ・利用者ニーズや土地所有者の意向をふまえた見直しを行う。(公園緑地課) 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用ニーズ調査等へ協力する。 	—

今後も公園緑地の配置状況や市民ニーズ、土地所有者の意向等を踏まえつつ、必要性や財政負担等を検討しながら、取組みを進めます。

③取組み項目：市民参加型のリニューアルの推進【継続】

市	市民(市民団体等)	事業者
<ul style="list-style-type: none"> ・大幅な見直しが必要な街区公園等の市民参加による再整備を行う。(公園緑地課) 	<ul style="list-style-type: none"> ・大幅な見直しが必要な街区公園等の再整備は、計画段階から参加する。 	—

今後も老朽化による再整備の必要性の高い公園等は、利用者ニーズや地域特性を捉えて、地域の合意形成を図りながらリニューアルを推進します。

○施策12：みどりのリサイクルの推進

①取組み項目：剪定枝等の土壌改良材としての活用の推進【継続】

市	市民(市民団体等)	事業者
・剪定枝を活用し、土壌改良材のリサイクルを推進する。 (ごみ対策課、公園緑地課、道路交通課)	・リサイクルされた土壌改良材を利用する。	・リサイクルされた土壌改良材の活用等を支援する。

引続き、剪定枝等の土壌改良材への利活用を推進します。

②取組み項目：みどりのリサイクルのあり方の検討【継続】

市	市民(市民団体等)	事業者
・公園緑地で発生する落ち葉や剪定枝等の身近なリサイクルを推進する。 ・木質バイオマス等の新たな活用方法を検討する。 (ごみ対策課、公園緑地課、道路交通課)	・公園緑地で発生する落ち葉や剪定枝の身近なリサイクル活動の実施や、リサイクル製品を利用する。	・みどりのリサイクル活動の自主的实施や、支援・協力を行う。



今後も剪定枝等の土壌改良材以外での利活用や、木質バイオマスへの活用の可能性などの検討を進めます。

4. 施策方針D 歴史文化の保全と活用

ア. 施策の現状と課題

多摩市には旧石器時代、縄文時代、古墳時代の遺跡や鎌倉時代以降の史跡・文化財が数多く分布していますが、その一方で、市街地開発等に伴い歴史的空間は減少してきている状況があります。これらを良好に維持し保全していくための活用施策を進めていくことや、また、市内には桜の名所や、「多摩よこやまの道」、「からきだの道」などの散策道、昔から地域に根付いているお祭りや行事等には、みどりに関するものもあり、歴史・文化の資源を次世代に継承していくことは重要です。

市の財産である史跡文化財や歴史空間の保護、維持管理のための様々な取り組みや、より多くの市民に理解いただくために旧多摩聖蹟記念館、古民家を活用する貸出事業等を行っています。さらに、史跡周辺のみどりが一体となって市民が楽しめ、身近に感じる活用にも継続的に取り組み、史跡文化財に関するイベントでは、歴史、文化財や自然に関心がある参加者が多いことを踏まえ、今後もふるさとへの愛着を深め、身近に親しめる施策の推進が必要です。

【施策の取組み状況評価】※評価の表記 取組みが前進した  変わらない  取組みが後退した 

施策と取組み項目		評価			
		H24年度	H25年度	H26年度	H27年度
13文化財等の保全と活用	①史跡文化財や歴史的空間の保全				
	②みどりと連携した史跡文化財の活用				

イ. これからの取り組みと役割

○施策13：文化財等の保全と活用

①取り組み項目：史跡文化財や歴史的空間の保全【継続】

市	市民(市民団体等)	事業者
・史跡文化財や歴史的空間の保全・維持管理を行う。 (教育振興課)	・史跡文化財や歴史的空間を大切に、維持管理活動に協力する。	・史跡文化財や歴史的空間の維持管理活動に協力する。

次世代に継承すべき財産として、市内に数多くある歴史を感じさせるみどりや史跡文化財を引続き、保全・維持管理をしていきます。

②取り組み項目：みどりと連携した史跡文化財の活用【継続】

市	市民(市民団体等)	事業者
・歴史を感じさせるみどり(散策路等)や史跡文化財の認知促進、また史跡周辺のみどりと一体となって市民が楽しめ、身近に感じる活用支援を行う。 (教育振興課)	・史跡文化財を知ったり、楽しむ活動やイベントに参加する。 ・関連する市民団体等は、活動やイベント等を主催したり、共催により協力する。	・史跡文化財の保全や活用に協力する。

史跡周辺のみどりが一体となって市民が楽しめ、身近に感じられる活用に継続的に取り組み、また、史跡文化財に関するイベントでは、さらに多くの市民参加が集められるような魅力ある講座等の開催を検討します。

※取り組み項目名にある【新規】【変更】【継続】は、それぞれ現基本計画の施策から、新たに追加する内容、変更する内容、取り組みを引継いでいる内容を示しています。

5. 管理指標

ア. 施策の実施効果と課題

①みどり率

(市内に占める樹林地、公園緑地、水面などで覆われた面積の割合)

平成 26 年度の調査では前回より 0.2%、面積にして約 3.5ha の微増となっています。結果の分析からは、主に既存の緑の繁茂が理由であり、新たなみどりの創出による増加はほとんどない状況と考えられ、引続き、市内に残る貴重な緑の保全に可能な限り取り組んでいくことが求められています。

②みどりが豊かと感じる市民の割合

平成 24 年度調査では計画に掲げる基準値を 0.2%超えていましたが、その後の調査では2回とも 0.6%減少しています。割合が減少している要因としては、樹木の成長や管理、防犯面での課題や要望が反映されていると考えられ、今後も剪定や伐採など適正な管理に取り組んでいく必要があります。

③みどりの維持管理活動に参加したことがある市民の割合




平成 24 年度以降、調査ごとに減少しています。今後は、グリーンボランティア講座などを通じて、みどりに関わる市民の発掘に努めていく必要があります。





④更新が必要な公園緑地の施設更新達成率

対象とする近隣公園、地区公園 26 箇所のうち、平成 27 年度末までに「諏訪・永山地区再生整備事業」における重点整備として、永山北公園及び永山南公園の2箇所を改修を完了しました。今後も老朽化や時代のニーズに合わないなど更新が必要な公園緑地について、関連する再整備計画等に基づき着実な施設更新を図っていくことが求められています。

⑤地域の歴史文化活動に参加したことがある市民の割合

平成 24 年度以降減少しているものの、多摩市の歴史文化を伝承する団体とみどりの保全活動を行う団体との交流をきっかけとして、これらの活動が多くの人に広がっていくことが期待されます。

【目標の評価】 ※評価の表記 目標を達成  目標に対して前進  変わらない  目標に対して後退 

管理指標	基準値 (H22)	H24	H25	H26	H27	目標値 (H33)	進捗 評価
①みどり率(市内に占める樹林地、公園緑地、水面などで覆われた面積の割合)	46.7% (※1)	-	-	46.9%	-	現状維持	目標 達成
②みどりが豊かと感じる市民の割合	96.4%	96.6%	95.8%	- (※2)	95.8%	現状維持	
③みどりの維持管理活動に参加したことのある市民の割合	66.1%	63.9%	62.7%	- (※2)	54.7%	80.0%	
④更新が必要な公園緑地の施設更新達成率	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	7.7%	40.0%	
⑤地域の歴史文化活動に参加したことのある市民の割合	6.6%	4.5% (※3)	4.9%	- (※2)	3.4%	20.0%	

(※1)みどり率の基準値は平成21年度の数値。算出は5年に一度を目処に実施しているため、平成24年度、25年度、27年度の数値はない。なお、みどり率の算出にあたり、前回(平成21年度)の集計結果に、都立公園の都市計画決定面積が含まれていたため、これを除き改めて算出した。基準値及び実績値は改めて算出した数値を使用している。

(※2)世論調査の結果を元に算出しているが、平成26年度は世論調査を実施していない。

(※3)世論調査の結果を元に算出しているが、平成24年度は世論調査を実施していないため、平成23年度の調査結果を記載

イ. これからの管理指標の設定

①みどり率（市内に占める樹林地、公園緑地、水面などで覆われた面積の割合）

【継続】

直接的な効果を把握する施策方針		A 生物多様性に配慮したまとまりあるみどりの保全	間接的な効果を把握する施策方針		B 暮らしと調和したみどりの適切な育成管理
基準値	目標値	指標の説明		計測方法	
※ 46.7% (H22)	現状維持 (H33)	市内のみどりの量の変化を把握することにより、着実な保全が進んでいるかどうか確認します。		最新の衛星写真をもとに、市内の樹林地、公園緑地、農地、河川や池等の水面等の量を計測します。目標値は、現在あるみどりを着実に保全していくことを目標に、現状維持をめざします。 (公園緑地課)	

※平成21年度の数値。なお、21年度の集計結果に都立公園の都市計画決定面積が含まれていたため、これを除き改めて算出した数値を使用

引続き、みどり量を把握し、みどりの保全や適切な維持管理の取組みを進めます。

②みどりが豊かと感じる市民の割合【継続】

直接的な効果を把握する施策方針		A 生物多様性に配慮したまとまりあるみどりの保全	間接的な効果を把握する施策方針		B 暮らしと調和したみどりの適切な育成管理 C 身近なみどりの創出と公園緑地の再生
基準値	目標値	指標の説明		計測方法	
96.4% (H22)	現状維持 (H33)	市民アンケートにより、実際のみどりの量に対し、みどりの豊かさを感じる割合を把握します。		「多摩市市政世論調査」で、みどりの豊かさについて「良い」、「どちらかといえば良い」と答えた市民の割合により計測します。既に高い割合を占めていることから、現状維持をめざします。 (公園緑地課)	

引続き、みどりの量に対するみどりの豊かさを感じる割合を把握し、みどりの保全や適切な維持管理のほか、みどりの創出と公園緑地の再生の取組みを進めます。

※管理指標名にある【新規】【変更】【継続】は、それぞれ現基本計画から、新たに追加する内容、変更する内容、指標を引継いでいる内容を示しています。

③みどりの維持管理活動に参加したことの市民の割合【継続】

関係する 施策方針	直接的な 効果を把握	B 暮らしと調和したみどりの適切な育成管理	間接的な 効果を把握	C 身近なみどりの創出と公園緑地の再生
基準値	目標値	指標の説明	計測方法	
66.1% (H22)	80.0% (H33)	市民アンケートにより、道路や公園の草取り等の清掃活動に、参加したことの市民の割合を把握し、多様なみどりの育成管理に関わる施策の実施効果を確認します。	「多摩市政世論調査」で、道路や公園の草取り等の清掃活動に、「現在参加している」、「これまでに参加したことがある」と答えた市民の割合を把握します。様々な施策を実施することにより、約8割以上の市民がみどりと関わりを持つことをめざします。 (公園緑地課)	

引続き、みどりの維持管理に参加したことの市民の割合を把握し、多様なみどりの育成管理の取組みを進めます。

なお、市政世論調査では、設問の意図を分かりやすくするため、解説を加えるなどの計測方法の工夫等を検討していきます。

④更新が必要な公園緑地の施設更新達成率【継続】

直接的な効果を 把握する施策方針	C 身近なみどりの創出と公園緑地の再生	間接的な効果を 把握する施策方針	
基準値	目標値	指標の説明	計測方法
0% (H22)	40.0% (H33)	老朽化や時代のニーズに合わないなど更新が必要な公園緑地について、着実な施設更新の実施度合いを把握します。	公園緑地の総点検に基づく、都市基盤施設維持・更新基本計画(長寿命化修繕計画)にそった施設リニューアルの実施度合いを計測します。対象となっている公園緑地26箇所(約91ha)の総合公園、地区公園、近隣公園のうち、平成33年までに10箇所のリニューアルを推進します。 (公園緑地課)

引続き、老朽化や時代のニーズに合わない公園緑地の施設更新度合いを把握し、着実なリニューアルを推進します。

⑤地域の歴史文化活動に参加したことがある市民の割合【継続】

直接的な効果を把握する施策方針		D 歴史文化の保全と活用	間接的な効果を把握する施策方針
基準値	目標値	指標の説明	計測方法
6.6% (H22)	20.0% (H33)	市民アンケートにより、歴史文化に関する地域活動への関わり度合いを把握し、歴史文化資産の活用推進施策の実施効果を確認します。	「多摩市市政世論調査」で、地域の歴史研究、伝統芸能の保存活動に関する地域活動に、「現在参加している」、「これまでに参加したことがある」と答えた市民の割合を把握します。各種ボランティア活動に関わった割合と同等の2割以上の関わりを目標とします。 (公園緑地課)

引続き、歴史文化に関する地域活動への関わり度合いを把握し、歴史文化の保全と活用施策の取組みを進めます。

なお、市政世論調査では、設問の意図を分かりやすくするため、解説を加えるなどの計測方法の工夫等を検討していきます。